

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473201000
法人名	株式会社ジャパンケアサービス
事業所名	グループホーム遊宴西川島
訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473201000		
法人名	株式会社ジャパンケアサービス		
事業所名	グループホーム遊宴西川島		
所在地	神奈川県横浜市旭区西川島町29-10 (電話) 045-370-6130		
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-2		
訪問調査日	平成 19年 12月 6日	評価確定日	平成 20年 1月 22日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 30日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11.6

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	73,000 円	
敷 金	有( 270,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,381 円			

## (4) 利用者の概要(平成19年10月30日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団明豊会 南六ツ川クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩10分の畑や梅林が隣接する恵まれた環境に在る。  
運営方針に「在宅での暮らしを実践し、利用者と職員が暮らしを共にする」と謳われており、職員はあらゆる場面で、利用者が自己決定できるように言葉掛けを行い、一人ひとり得意とする場面で生き活きと過せるように配慮し支援している。  
利用者ごとに担当職員を決め、毎月家族に、担当職員が利用者一人ひとりの状況を記したお便りを発行して、家族との交流を深めている。  
ベランダから菜園に出られ、春はキャベツやさやいんげん、夏はナスやピーマン、トマトなどを収穫し、食べる楽しさも味わっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で取り組み課題となった、栄養士による定期的な栄養チェックについては、改善し実施している。 その他の改善として、浴室内のバリアフリー化と職員に対する年1回の定期健康診断を実施することにした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員参加で自己評価に組み込む計画であったが、職員の交替があったため、今回の自己評価は、管理者とユニットリーダーで行った。なお、前回の自己評価は、外部評価結果と併せて各ユニットの玄関に掲示し、家族を始め来訪者にも見られるようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、年度内の開催を予定しており、現在、開催に向けて準備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者ごとに担当職員を決め、担当職員が利用者の毎月の状況を書信で報告している。家族の意見や要望等は、家族が事業所を訪問した折などに聞き出すようにしている。このほか各ユニットの玄関にご意見箱を置き、また、法人本部で年に1回、家族を対象にアンケート調査を実施するなどして、家族の意見・要望等を聞き、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の町内会と老人会に加入しており、夏祭り等地域の行事などの情報は回覧版で入手している。行事には利用者が職員と一緒に参加している。事業所の行事の際には、地域のより多くの人に参加してもらえるよう、地域にお知らせしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	両ユニットの事務所内に、法人の理念「豊かな高齢社会の建設」とホームの目的、運営方針を掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所内に掲示し、管理者、職員が常に確認できるほか、月例のミーティングで管理者と職員が理念を共有し、その実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、町内会や老人会に加入している。地域の行事や活動内容は、回覧版で案内があり、夏祭りなどの行事に利用者が職員と参加している。事業所の行事も地域にPRし、参加者が増えることを期待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員参加で自己評価に取り組む計画であったが、職員の交替があったため、今回の自己評価は、管理者とユニットリーダーで作成した。平成18年度の自己評価票と外部評価結果を玄関に掲示し、家族や第三者が見ることができるよう公表している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年度内の開催を予定しており、現在、開催に向けて準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターにも相談に出向いている。区担当者との連携にあたっては、今後取り組んでいく意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに担当職員を決めており、毎月所定の様式で担当職員が、家族に利用者の状況を報告している。金銭の立替については、家族の来所時に報告・精算している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットの入口にご意見箱を置いて、家族の意見や要望を聞く他、家族の来訪時に要望等を聞き出すよう努めている。また、法人本部で年1回、運営事業所の全家族にアンケート調査を行い、その結果を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、新旧の職員の勤務期間を重ねて、利用者の不安を軽減するように努めている。法人として職員の定着率を高めるよう、職場環境の改善にも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部での採用時研修のほか、管理者・ユニットリーダーを対象に月例のミーティングを行い、情報交換等を行っている。その他に、職員は外部の研修会に自主的に参加するなどして、資質向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流し、会合に参加し情報交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事業所を見学してもらった後に、入居に先立ち1日～1週間の体験入居を推奨している。アセスメントには、管理者と職員が利用者宅に出向き情報取得に努めている。入居後は、担当職員を中心に話しかけや見守ることにより、本人の不安の解消に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>事業所を家庭の延長として捉え、食事の準備や後片付けから掃除まで、本人の能力と意欲に応じて職員と共に支えあって生活している。職員は、裁縫や炊事面で利用者から教えられることが多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントで本人の基本的な情報を得た後は、日常生活での会話、しぐさや表情から情報を得るように努めている。得られた情報は、朝夕のミーティングや、毎月の会合で話し合い職員間で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを基に、管理者、担当職員間で介護計画を作成し、本人、家族の理解を得て取りまとめている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護度の変更があった時やADLが低下した時など本人の状況に応じて、家族、医師、職員の三者で面談し、介護計画を随時見直し、改定している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から寄せられる介護関係以外の相談にも応じるなど、状況により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にかかっている利用者は少数で、多くの利用者は事業所の協力医療機関で受診している。毎週金曜日に内科医が、火曜日には希望者を対象に歯科医が往診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所後3年を経過した段階で、まだターミナルケアに取り組んだことはないが、家族からの希望もあり、今後は対応していく方針である。法人本部でも他の事例を基に研修を計画している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについては、玄関と事務所に掲示し、利用契約書に明示して同意を得ている。職員には採用時研修で説明し、日常の介護での対応をミーティングやカンファレンスで確認しあっている。書類の記載は事務所内で行い、書庫に施錠管理し事務所も施錠している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前のアセスメントで利用者の生活歴や趣味、特技等を把握し、書道の好きな方、手芸が得意な方等々、自分のペースで思い思いの時間を過している。また、会話の中から興味のあることを捉えて、押し花や風鈴作り、リース作りなど希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝、調理室にある食材で何を食べたいか、何が作れるかをみんなで相談し、「お昼は～を作ろう」と思いを膨らませ、利用者がそれぞれ得意な分野を受け持ち、調理から配膳、片付けまでスムーズに取り組めるように支援している。食事の際にも、「上手くできたね、美味しいね」と利用者と職員が会話をしながら、食事が楽しみなものになるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に2回以上の入浴の機会を確保している。時間帯は午後が多いが、散歩の日は午前中に入るなど臨機応変に対応している。また、入浴を嫌がる方には、気の合う職員が日勤の時を選んで対応している。同性介助を希望する方には、他のユニットの職員も協力して、一人ひとりに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントで生活歴や趣味、特技を把握し、さらに、担当職員が利用者との日常の会話を通してその人の意向を把握したり、家族の来訪時に思いや意向を確認して支援に繋げている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に3～4回は散歩や車での買い物、ファミリーレストランでの外食などに出かけている。車椅子の方もできる限り一緒に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は施錠していないが、各ユニットの玄関は家族からの安全確保の要望を受けて施錠している。利用者は居室を「自分の家」として捉えており、利用者自身が自分で施錠することが普通のことになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを整備し、消防署の指導で避難訓練を年1回実施している。消防署への直通電話回線があり、スプリンクラーを全室に設置している。非常食は1日分を備蓄している。地域との協力体制については、これから開催する運営推進会議での議題としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの食事と水分の摂取量を記録しており、水分不足や食事量の減少については申し送り欄に記録し、全身状態をチェックし補給している。栄養バランスについては、食材を購入している業者の栄養士による確認となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	日当たりの良い居間兼食堂で外の景色を眺めながらゆったりとくつろげるようになっている。隣の畳の間は家族との団欒の場になっている。廊下は車椅子2台が通れるスペースを確保しており、中間に腰掛けて一休みできる畳敷きのコーナーもあり、一人になれる場所になっている。台所も動き易く、調理等の共同作業が可能なスペースである。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室の入り口は、一般家庭の玄関の雰囲気で作られており、トイレと洗面台の他、窓側には内障子があり、利用者は自分の住まいとして、家と同様に施錠している。これまで慣れ親しんできた整理箆箆やベッド、机、椅子、テレビや趣味の品などを持ち込み、思い思いの過ごし方ができて、本人の安らぎの場になっている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム遊宴西川島
(ユニット名)	太陽ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区西川島町29-10
記入者名 (管理者)	西中 陽子(菊地 寿枝)
記入日	平成 19 年 10 月 30 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域の方で訪ねてきてくれる方が限られているので和を広めるような、活動をしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		ミーティングや機会のあるごとに何故理念が大切かの話をし、周知徹底を図っていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		敬老会などの地域の家族が参加しやすい機会を多く作り、その集まりの際に地域家族に理念の説明をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		立ち寄っていただける機会が、少ない為ホームでの行事を増やし近所の方に来ていただける機会を増やす。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会のイベントには参加させていただいているが、来ていただく機会を多くするような催し物を多くしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在行っておりません		ベルマークを集め近くの学校にご入居者と持参したり、ホーム開放し、気軽に立ち寄れるよう、催し物を多くしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在行っておりません		昨年からの職員は意義を理解しているが、新しい職員は理解していない為、説明をする機会を設け、具体的な改善に取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行っておりません		今現在運営推進会議を開催していない為、11月中に開催する予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在行っておりません		機会をつくり、サービスの質の向上に取り組む予定。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在行っておりません		成年後見人制度などまだまだ不明な点が多いため、機会を作り、職員に勉強会を開き浸透させていく予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のセミナーなど外部研修に参加する機会をもち、セミナー参加者にミーティングで発表してもらっている。		職員が全員揃っていているのではないので、セミナーの際順番で参加する機会をつくり、ミーティングで話し合っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際きちんと説明・納得していただき印鑑を頂いている。</p> <p>また不明な点は、その都度確認し、質問をされた点について、答えが出ない物は、本社に聞いて答えられるようしている。</p>		<p>返答に時間がかかってしまう場合があるため、的確に早く質問に答えられるようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・クレームに関してはミーティングで職員に話、職員と話し合うようにしている。</p>		<p>新しい職員はどんなことでクレームになっているか分からない為ミーティングや機会があるごとに伝えていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>居室担当を決めて、毎月お便りをだし、何かあった際はその都度電話報告をしている。</p>		<p>新しい職員のご家族への顔をあわせる機会を設けていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在行っておりません</p>		<p>家族会を早急に立ち上げ、場を作っていく予定。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで職員の意見は聞くようにしている。</p>		<p>まだまだ、反映されていない意見が多いため、意見をまとめて持っていく。新しい職員にも言い易い雰囲気作りを目指す。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご入居者の状況にあわせ、職員の勤務時間の変更、及び勤務日の変更をお願いしている。</p>		<p>今後も希望に応じ、ご入居者の様子に応じて、変更調整を図っていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動をしなければならない場合、一人づつには、している。</p>		<p>移動をしなければならない場合、その移動した職員になじみになってから、他の職員の配置を考えられるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>その職員に必要な外部研修は、こちらからもって行き、参加するよう勤務の調整をしている。</p> <p>また、ミーティングで話をしてもらおうようにしている。</p> <p>社内に採用時研修を設け実施している。さらに月に一度本社にて各グループホームの全体ミーティングを実施している。</p>	<p>全員が参加できないため、ミーティングで話す機会を設けているが、ミーティングでも全員参加できないので発表する機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在おこなっていません。</p>	<p>機会を作り、他のホームと交流をしていく。最初に同じ系列のホームより始めていく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者・リーダーがスタッフの様子を見ながら、話はしている。</p>	<p>定期的に個人面談をするなどしてスタッフが言い易い環境をつくる。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々には、苦手な部分をフォローし、それに対するマニュアルの作成をしている。</p>	<p>カンファレンスの機会をおおくし、職員でやって欲しい研修を、ミーティングにもりこんでいく。</p>
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所していただく前に時間を設け、事前面談のほかにも、ご入居者本人に会いに行くようにしている。</p>	<p>そのユニットのリーダーだけでなく他の職員も何回かいけるように、シフトの調整を行いたい。</p> <p>そのユニットの職員が共有できるようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話など連絡する回数を多くし、また、来設していただいた際には、話を聞く時間を持つようにしている。</p>	<p>ユニットリーダーだけでなく、ユニット職員が家族と話できる機会をつくり、希望など聴く機会をつくりたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在訪問リハビリが来ている。 医療的な分野で支援が必要になった場合、提携している医師の指示を仰いだり、診察してもらったりしている。		提携医師・リハビリ・地域包括などに密着にし利用の幅を広げ、選択肢を増やしたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず、状態を家族に連絡し、また、サービスの変更が有る場合は、変更、確認をとるように、している。		家族との連絡が取れない場合があるため、連絡時間との調整をはかっていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・掃除等の日常生活の中で力を発揮しスタッフと一緒に過ごすようにしている。		一緒に出来る方が限定されている為、ユニットの方全体で力が発揮できるようにしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話だけでなく、面会の際報告・相談をしている。		現在主に面会時報告しているのが、リーダー・管理者が多い為、スタッフ全員で出来るようにしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と、ご本人の希望が、合わないケースが、多いため職員だけでなく、リーダー・管理者が対応している時がある。		バックグラウンドを知り、ご本人・ご家族をよりよい関係でいられるよう支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際、報告しながら、情報を聞くようにしている。 またそのことに対して、ご入居者の様子を見るようにしている。		ご入居者のバックグラウンド全体を把握できているわけでは内意なので、面会の少ない方は情報が少ない為、電話などで報告をまめにし、情報を収集して支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の得意な分野をさがし、ご入居者同士、アプローチし易い場面の場を作っている。 関係など配慮し、ご入居者が孤立しない要している。		まだまだ、把握していない部分が多いので、様子観察をし、得意分野をさがして、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在いらっしやらない。		継続を必要とする、ご利用者、ご家族とは付き合いを大切に、まめに連絡していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者一人一人の話をよく聞き、以降の把握に努め、意志表示の困難な方には、様子をよく見てカンファレンスをひらいて、検討している。		カンファレンスを多く開き、ご本人の理解が出来るよう支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・経験をご本人・ご家族からお聞きして、ケアに当たっているが、把握できていないところがある。		ご入居者一人一人つかみきれていない部分があるので再度ご家族に確認する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご入居者一人一人のもっている力、また得意な分野を把握し、その力に対して、アプローチしながら、支援している。		他にも出来る部分を見逃していることが多いと思われるので、様子観察してその部分に対しても、支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ同志では、話し合いはしている。 また、一ヶ月以内でレベルダウンした方は、ドクター・ファミリーとの意見交換をしている。		ご家族・必要な関係者とご入居者全員とではない為レベル・ダウンした方だけでなくその他の方も行っていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じた話し合いをし、話し合いの結果は実行している。		一ヶ月以内にADLダウンした方について、は行っているが、全員の見直しが出来ていない為今後行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気付き、ケアプランに反映していく事柄については、月間支援記録に記入し、プランにいかしている。		月間支援と日常記入する物と上手く使い分けが出来ず苦労している部分があるため、記録に関しての勉強会を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの相談はその都度きき、一人で判断できないことに関しては、ミーティング・カンファなどで話をし関係機関に依頼し支援している。		早期解決が出来ていないことが多いので、速やかに関係機関に協力を仰いで、解決していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方は定期的には定期的に来ていただいている。 消防・警察などの機関の働きかけは充分ではない。		本人の意向に応じたボランティアの来設。また、周辺地域の方に協力を得られるように挨拶しに行くなどしていい関係を作る。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在リハビリに関しては、身体的にレベルの低下があり、必要と思われる方は、ご家族にお話し、医師と連絡・相談し行っている。		今後リハビリだけでなく、どんなサービスが提供できるか、他の事業所などに聞いて、行っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在行っていない		今後相談し協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化の見られた際は、直ぐ訪問医に報告し、相談・対応。また指示により、外部の医師に依頼することもある。		外部の医療機関ではご入居者が、落ち着かなくなることもあるため、早め早めの対応を心がけ、支援にあたって行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在外部の病院で診て頂いているが、職員が付き添って受診する機会が少ない。		受診時職員が行き、状態を報告できるようシフトの調整をしていく。また、診断結果をきちんと把握し支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、滴便など、医療行為は准看護師がやっている。また健康・管理面も指示・指導もお願いしている。		今後健康管理・医療などヘルパーとして、必要な知識の研修会を開いていく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関がある。		今後入院された場合、ご家族だけでなく、医療関係者との情報交換を蜜にし、話し合いの場を設けるようにする。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の優れないご入居者のご家族とドクター・スタッフとの話し合う機会を設けている。またご家族に了解をえて、大人数のスタッフの同席をお願いしている。話し合いの終了後カンファを開き、方針を共有している。		月に一回程度定期的に行っていきたい。ご家族の思いの確認をきちんとしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	話し合いのあと、カンファレンスを開き、方針を共有し体調の変化があった場合は、直ぐかかりつけ医に連絡。指示を仰ぐようしている。		体調の変化を見逃さずに、今後も支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在いらっしゃいません。		今後あった場合、他のケア事業者と話し合いを充分に持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご入居者一人一人を尊重し、言葉掛けにたいして、ご本人がわかるように話をしている。また記録などは記入する時だけ机に出すが、それ以外ではご入居者の目に触れにくいところに保管している。</p> <p>利用契約書に個人情報提供同意書・個人情報の利用目的・プライバシーポリシーが添付されている。</p>	<p>夜間は記録用紙を机の上においてあることが多い為、伏せておく・定位置に置くなど習慣にしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉かけを分るように話、自己決定を尊重する支援をしている。</p>	<p>自己決定できないご入居者の方に関しては、今後も様子観察を欠かさず行い、入居者本意の支援をして行く。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースをはあくしており、自己決定・希望を尊重した支援をしている。</p>	<p>自己決定できないご入居者の方に関しては、今後も様子観察を欠かさず行い、入居者本意の支援をして行く。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの価値観が違うので、ご本人にあわせ、支援している。</p>	<p>理美容は定期的に訪問してもらっているが、外出して戸まで入っていないので、今後ご家族と相談していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ある材料でご入居者と何が出来るかを話し合い、材料をきったり、配膳をお願いするなどして、支援している。</p>	<p>買い物と一緒に行って下ごしらえをしたりして、活動の場を広げた支援をしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつ時、飲み物については何がいいかをお聞きしてお出ししている。また、おやつに関しても好きな物を把握しお出ししている。</p>	<p>現在、酒・煙草を嗜む方が入居されていないので、いらした時は考えて支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をする方には生活記録をしようしているので、排泄パターンはつかんでいる。		自立でトイレが出来るご入居者の一人一人完全に把握出来ていないので生活記録・支援の仕方を見直していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の良し悪しをみて、決めることも多いが、入浴もご本人が何時入浴したいかを確認しながら行っている。		意思表示の困難な方にも希望に添った支援をしていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように生活のリズムを考えている。昼など休息は体調に考慮し、生活リズムを崩さない程度に休息できるよう支援している。		入居当時と生活パターンが変わっている方も多いため、日常の記録を検討し支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大切にしているが、生活歴をすべて把握できていないところがある。		その方のバックグラウンドを知り、支援していく。ご家族に面会の際お話しする機会時間を作って頂き知る機会を増やしていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在立て替え金でおこなっている。		ご入居者の希望時買い物に行くなど希望がかなえられるよう支援していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩などには行っているが、出かける頻度がご入居者により違う。		出かける機会の少ないご入居者への場面作りをしていき、外出機会を増やす。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在スタッフが同行できないことが多い。ご家族にお願いしている。		スタッフがそのご入居者の理解をする為にもスタッフが同行できる勤務にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得て電話・手紙のやり取りは支援している。		早期にご家族に了解を得られるよう働きかけていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族にはいつでもいらしてくださいようお話ししている。 お茶をお出ししたり、人数の多い際にはファミリールームを利用させていただいている。		スタッフ全員、そのユニットの面会にいらしたご家族が誰のご家族かわかり、挨拶・お茶だしをきちんとする。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する話をミーティングで話している。 現在ご家族の強い希望もあり、時間によってはしなければならぬことがあるが、廃止の方向に持っていく。		身体拘束委員会を設立し、講習会に参加し、再度意識付けをしていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関はカギを掛けていないが、落ちつかないご入居者が複数の場合、うち玄関だけカギをかけている。 ご家族よりカギを掛けて欲しいと強い希望もある。		ご入居者の居場所の確認とご本人の気持ちを尊重し、散歩などできるよう、勤務を調整していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーは配慮されている。個室であるため夜間は、時間を決めて巡回して安全に配慮している。		所在の把握はしているが、様子の把握は出来ていないことがあるため、ミーティングで話し合っていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの危険防止についてはカンファで話し合い、どうしてもという物はなくし、危険防止に努め支援している。		周辺症状が強くて、共同スペースの物を移動しなければならなくなっているため、再度カンファをし考えていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを活用し、カンファの際に話し合い事故防止に取り組んでいる。 また、事故防止の為の話もミーティングで伝えてきている。		徹底されていないところもあるため再度ミーティングで話をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを見やすいものにかえ、対応し易いものになっている。		常日頃より緊急時の対応が出来るよう勉強会の開催・消防署から来ていただき対応する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一回避難訓練はしている。		協力のお願ひまでは出来ていないので散歩の際などお会いした時に働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態不安定なご入居者のご家族にはあらかじめ、ドクターに依頼しムンテラをひらくなどして、以降を確認している。		状態を電話連絡するなど、こまめに連絡していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には留意し、気が付いた時は、リーダー・管理者に報告。申し送りに必ず入れるよう伝えている。		申し送りされない時があるので、ミーティングなどで話をし徹底していき共有していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員の分り易いところにおき、不明な点は質問を受け、ドクター・薬剤師に確認している。薬の変更の際は影響などを申し送るようしている。		処方箋を常に見るよう促し、副作用などの見方などの話をミーティングですていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になり易い人には、水分を多めに摂取していただいている。 献立にも繊維の多いものを取り入れている。		水分量の正確なチェックをし、便秘予防に努め、快適に過ごしていけるよう支援する。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時など口腔清潔しており、ご自身で出来るところは、やっていただいている。届かないところはスタッフが仕上げをさせていただいている。		自立で磨いている方に関しては、どの程度できているか、わからないところがあるため、再度状態の把握をして行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスのよい食事の献立を考えている。 一人一人の食事量・大きさなどを考えて盛り付けしている。		季節感を感じる食材の使用が少ないので、感じられるような食材の使用をしていく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、見えるところに置いてある。 手洗いうがいの徹底をしている。		職員だけでなく、ご入居者の方にも手洗いを習慣付けられるような支援をしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁とまな板は毎日ハイターに漬けている。 布巾類は使用の都度ハイターに漬けている。 食材は冷蔵庫で管理しているが、入らないもの・入れないほうがよいものは冷暗所で保管している。		包丁・まな板は肉・魚など切ったときはきった都度ハイターにつけていく。 布巾は多めに用意し、乾燥をきちんとする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に季節の花を植えている。		建物が分りにくいので今後、さり気なく分り易いよう表札を付ける位置を工夫していく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁などに季節に合わせたレイアウトをしている。 テレビ・ラジオの音量に注意している。		職員とご入居者でレイアウト考えていけるよう支援していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、椅子の配置を工夫したり、テレビの位置を替えたりし過ごし易いようしている。		孤立してしまわないようなレイアウトを考え支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が使い慣れた家具を持ってきていただき、愛着のあるぬいぐるみ等を持ち込んで頂き、配置もご本人・ご家族と相談し決めている。		ご入居者全員ではないのでご家族に働きかけて居心地よくする支援をしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日に数回は換気をしている。暑さ・寒さの訴えにはエアコンの調整をしている。また訴えることが出来ない方にはご本人の様子をみてスタッフがエアコンの調整をしている。		居間だけでなく居室の換気もまめに行いよい環境の中で過ごしていただけるよう支援する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室にはシャワーチェアが配置され、共同部分には、手すりを配置してある。また玄関にはスロープが配置されている。		手すりの位置の再度の確認をし、シャワーチェアも必要か必要でないかをご入居者に合わせた支援をして行く
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札をつけている。また夜間混乱の恐れのあるご入居者の方には居室内のトイレの扉を少し開け灯りを点けるようにしている。		浴室・トイレが分らなくなることもあるので目印をつけたり、トイレの扉を少し開けるなど工夫した支援を続けていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑があり、草取りを一緒にしていただいたり、野菜の収穫を行ったりして、活動できるよう支援している。		一部のご入居者に限られているので、全員のご入居者が何かしら携わっていただける支援をしていく。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

畑があり、ご入居者の方と季節の野菜が収穫できる。  
四季が感じられるようその季節に合わせた花を植えている。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム遊宴西川島
(ユニット名)	虹ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区西川島町29-10
記入者名 (管理者)	菊地 寿枝(菊地 寿枝)
記入日	平成 19 年 10 月 30 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方で訪ねてきてくれる方が限られているので和を広めるような、活動をしていきたい。	ご利用者様が今までの暮らしていた、在宅の生活を大切にしてどんな利用者さまも、ごく普通に地域の住民の方々の交流やイベントを持って頂く機会を支援する。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事務所にていじしている。また、新しく入った職員にはきちんと、理念を説明している。	ミーティングや機会のあるごとに何故理念が大切かの話をし、周知徹底を図っていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	敬老会などを開き、地域の方々、家族の方々に来てもらえるような、機会を設けている。	敬老会などの地域の家族が参加しやすい機会を多く作り、その集まりの際に地域家族に理念の説明をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご入居者と近隣への外出機会を作り、外出先でお会いした方々には、こちらから声をかけたり、相手から声を掛けて下さったり、している。	立ち寄っていただける機会が、少ない為ホームでの行事を増やし近所の方に来ていただける機会を増やす。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、回覧板をまわしていただいたり、町内会のイベントには、町内会の声かけにより、参加させていただいている。	町内会のイベントには参加させていただいているが、来ていただく機会を多くするような催し物を多くしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在行っておりません		ベルマークを集め近くの学校にご入居者と持参したり、ホーム開放し、気軽に立ち寄れるよう、催し物を多くしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在行っておりません		昨年からの職員は意義を理解しているが、新しい職員は理解していない為、説明をする機会を設け、具体的な改善に取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行っておりません		今現在運営推進会議を開催していない為、11月中に開催する予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在行っておりません		機会をつくり、サービスの質の向上に取り組む予定。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在行っておりません		成年後見人制度などまだまだ不明な点が多いため、機会を作り、職員に勉強会を開き浸透させていく予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のセミナーなど外部研修に参加する機会をもち、セミナー参加者にミーティングで発表してもらっている。		職員が全員揃っていているのではないので、セミナーの際順番で参加する機会をつくり、ミーティングで話し合っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際きちんと説明・納得していただき印鑑を頂いている。</p> <p>また不明な点は、その都度確認し、質問をされた点について、答えが出ない物は、本社に聞いて答えられるようしている。</p>		<p>返答に時間がかかってしまう場合があるため、的確に早く質問に答えられるようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・クレームに関してはミーティングで職員に話、職員と話し合うようにしている。</p>		<p>新しい職員はどんなことでクレームになっているか分からない為ミーティングや機会があるごとに伝えていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>居室担当を決めて、毎月お便りをだし、何かあった際はその都度電話報告をしている。</p>		<p>新しい職員のご家族への顔をあわせる機会を設けていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在行っておりません</p>		<p>家族会を早急に立ち上げ、場を作っていく予定。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで職員の意見は聞くようにしている。</p>		<p>まだまだ、反映されていない意見が多いため、意見をまとめて持っていく。新しい職員にも言い易い雰囲気作りを目指す。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご入居者の状況にあわせ、職員の勤務時間の変更、及び勤務日の変更をお願いしている。</p>		<p>今後も希望に応じ、ご入居者の様子に応じて、変更調整を図っていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動をしなければならない場合、一人づつには、している。</p>		<p>移動をしなければならない場合、その移動した職員になじみになってから、他の職員の配置を考えられるようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社全体のグループホームの管理者・リーダーを月1度研修会を実施している。定期的にユニットごとにミーティングを行っている。</p> <p>職員の採用時に会社本部にて研修を行っている。</p>		<p>全員が参加できないため、ミーティングで話す機会を設けているが、ミーティングでも全員参加できないので発表する機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在おこなっていません。</p>		<p>機会を作り、他のホームと交流をしていく。最初に同じ系列のホームより始めていく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者・リーダーがスタッフの様子を見ながら、話はしている。</p>		<p>定期的に個人面談をするなどしてスタッフが言い易い環境をつくる。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々には、苦手な部分をフォローし、それに対してのマニュアルの作成をしている。</p>		<p>カンファレンスの機会をおおくし、職員でやって欲しい研修を、ミーティングにもりこんでいく。</p>
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>虹ユニットでは、最近入居された方がいない</p>		<p>そのユニットのリーダーだけでなく他の職員も何回かいけるように、シフトの調整を行いたい。</p> <p>そのユニットの職員が共有できるようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>虹ユニットでは、最近入居された方がいない</p>		<p>ユニットリーダーだけでなく、ユニット職員が家族と話できる機会をつくり、希望など聴く機会をつくりたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在訪問リハビリが来ている。 医療的な分野で支援が必要になった場合、提携している医師の指示を仰いだり、診察してもらったりしている。		提携医師・リハビリ・地域包括などに密着にし利用の幅を広げ、選択肢を増やしたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず、状態を家族に連絡し、また、サービスの変更が有る場合は、変更、確認をとるように、している。		家族との連絡が取れない場合があるため、連絡時間との調整をはかっていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・掃除等の日常生活の中で力を発揮しスタッフと一緒に過ごすようにしている。		一緒に出来る方が限定されている為、ユニットの方全体で力が発揮できるようにしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話だけでなく、面会の際報告・相談をしている。		現在主に面会時報告しているのが、リーダー・管理者が多い為、スタッフ全員で出来るようにしていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と、ご本人の希望が、合わないケースが、多いため職員だけでなく、リーダー・管理者が対応している時がある。		バックグラウンドを知り、ご本人・ご家族をよりよい関係でいられるよう支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際、報告しながら、情報を聞くようにしている。 またそのことに対して、ご入居者の様子を見るようにしている。		ご入居者のバックグラウンド全体を把握できているわけでは内意なので、面会の少ない方は情報が少ない為、電話などで報告をまめにし、情報を収集して支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の得意な分野をさがし、ご入居者同士、アプローチし易い場面の場を作っている。 関係など配慮し、ご入居者が孤立しない要している。		まだまだ、把握していない部分が多いので、様子観察をし、得意分野をさがして、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在いらっしやらない。		継続を必要とする、ご利用者、ご家族とは付き合いを大切に、まめに連絡していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者一人一人の話をよく聞き、以降の把握に努め、意志表示の困難な方には、様子をよく見てカンファレンスをひらいて、検討している。		カンファレンスを多く開き、ご本人の理解が出来るよう支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・経験をご本人・ご家族からお聞きして、ケアに当たっているが、把握できていないところがある。		ご入居者一人一人つかみきれていない部分があるので再度ご家族に確認する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご入居者一人一人のもっている力、また得意な分野を把握し、その力に対して、アプローチしながら、支援している。		他にも出来る部分を見逃していることが多いと思われるので、様子観察してその部分に対しても、支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ同志では、話し合いはしている。 また、一ヶ月以内でレベルダウンした方は、ドクター・ファミリーとの意見交換をしている。		ご家族・必要な関係者とご入居者全員とではない為レベル・ダウンした方だけでなくその他の方も行っていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じた話し合いをし、話し合いの結果は実行している。		一ヶ月以内にADLダウンした方について、は行っているが、全員の見直しが出来ていない為今後行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気付き、ケアプランに反映していく事柄については、月間支援記録に記入し、プランにいかしている。		月間支援と日常記入する物と上手く使い分けが出来ず苦労している部分があるため、記録についての勉強会を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの相談はその都度きき、一人で判断できないことに関しては、ミーティング・カンファなどで話をし関係機関に依頼し支援している。		早期解決が出来ていないことが多いので、速やかに関係機関に協力を仰いで、解決していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方は定期的に来ていただいている。消防・警察などの機関の働きかけは充分ではない。		本人の意向に応じたボランティアの来設。また、周辺地域の方に協力を得られるように挨拶しに行くなどしていい関係を作る。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在リハビリに関しては、身体的にレベルの低下があり、必要と思われる方は、ご家族にお話し、医師と連絡・相談し行っている。		今後リハビリだけでなく、どんなサービスが提供できるか、他の事業所などに聞いて、行っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在行っていない		今後相談し協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化の見られた際は、直ぐ訪問医に報告し、相談・対応。また指示により、外部の医師に依頼することもある。		外部の医療機関ではご入居者が、落ち着かなくなることもあるため、早め早めの対応を心がけ、支援にあたって行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在外部の病院で診て頂いているが、職員が付き添って受診する機会が少ない。		受診時職員が行き、状態を報告できるようシフトの調整をしていく。また、診断結果を正確に把握し支援する。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、滴便など、医療行為は准看護師がやっている。また健康・管理面も指示・指導もお願いしている。		今後健康管理・医療などヘルパーとして、必要な知識の研修会を開いていく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関がある。		今後入院された場合、ご家族だけでなく、医療関係者との情報交換を蜜にし、話し合いの場を設けるようにする。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の優れないご入居者のご家族とドクター・スタッフとの話し合う機会を設けている。またご家族に了解をえて、大人数のスタッフの同席をお願いしている。話し合いの終了後カンファを開き、方針を共有している。		月に一回程度定期的に行っていききたい。ご家族の思いの確認をきちんとしていききたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	話し合いのあと、カンファレンスを開き、方針を共有し体調の変化があった場合は、直ぐかかりつけ医に連絡。指示を仰ぐようしている。		体調の変化を見逃さずに、今後も支援していききたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在いらっしやいません。		今後あった場合、他のケア事業者と話し合いを充分に持っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者一人一人を尊重し、言葉掛けにたいして、ご本人がわかるように話をしている。また記録などは記入する時だけ机に出すが、それ以外ではご入居者の目に触れにくいところに保管している。 利用契約書に個人情報提供同意書・個人情報の利用目的・プライバシーポリシーが添付されている。	夜間は記録用紙を机の上においてあることが多い為、伏せておく・定位置に置くなど習慣にしていきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉かけを分るように話、自己決定を尊重する支援をしている。	自己決定できないご入居者の方に関しては、今後も様子観察を欠かさず行い、入居者本意の支援をして行く。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースをはあくしており、自己決定・希望を尊重した支援をしている。	自己決定できないご入居者の方に関しては、今後も様子観察を欠かさず行い、入居者本意の支援をして行く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの価値観が違うので、ご本人にあわせ、支援している。	理美容は定期的に訪問で対応している。今後ご家族と相談して了承して頂き、外の商店の美容院でお洒落をしてもうらうよう支援して行く。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある材料でご入居者と何が出来るかを話し合い、材料をきったり、配膳をお願いするなどして、支援している。	買い物と一緒に行って下ごしらえをしたりして、活動の場を広げた支援をしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時、飲み物については何がいいかをお聞きしてお出ししている。また、おやつに関しても好きな物を把握してお出ししている。	現在、酒・煙草を嗜む方が入居されていないので、いらした時は考えて支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をする方には生活記録をしようしているので、排泄パターンはつかんでいる。		自立でトイレが出来るご入居者の一人一人完全に把握出来ていないので生活記録・支援の仕方を見直していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の良し悪しをみて、決めることも多いが、入浴もご本人が何時入浴したいかを確認しながら行っている。		意思表示の困難な方にも希望に添った支援をしていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるように生活のリズムを考えている。昼など休息は体調に考慮し、生活リズムを崩さない程度に休息できるよう支援している。		入居当時と生活パターンが変わっている方も多いため、日常の記録を検討し支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大切にしているが、生活歴をすべて把握できていないところがある。		その方のバックグラウンドを知り、支援していく。ご家族に面会の際お話しする機会時間を作って頂き知る機会を増やしていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在立て替え金でおこなっている。		ご入居者の希望時買い物に行くなど希望がかなえられるよう支援していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩などには行っているが、出かける頻度がご入居者により違う。		出かける機会の少ないご入居者への場面作りをしていき、外出機会を増やす。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在スタッフが同行できないことが多い。ご家族にお願いしている。		スタッフがそのご入居者の理解をする為にもスタッフが同行できる勤務にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得て電話・手紙のやり取りは支援している。		早期にご家族に了解を得られるよう働きかけていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族にはいつでもいらしてくださいようお話ししている。 お茶をお出ししたり、人数の多い際にはファミリールームを利用させていただいている。		スタッフ全員、そのユニットの面会にいらしたご家族が誰のご家族かわかり、挨拶・お茶だしをきちんとする。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての話をミーティングで話をしている。 緊急性ある身体束縛は必ずご家族に報告して了承頂く。 身体束縛の0を目指し、職員全体で知恵を出し合うようにしている。		身体拘束委員会を設立し、講習会に積極的に参加して身体束縛0の介護技術と身体束縛のないグループホームを目指して行く。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関はカギを掛けていないが、落ちつかないご入居者が複数の場合、うち玄関だけカギをかけている。 ご家族よりカギを掛けて欲しいと強い希望もある。		ご入居者の居場所の確認とご本人の気持ちを尊重し、散歩などできるよう、勤務を調整していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーは配慮されている。個室であるため夜間は、時間を決めて巡回して安全に配慮している。		所在の把握はしているが、様子の把握は出来ていないことがあるため、ミーティングで話し合っ行ってきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの危険防止についてはカンファで話し合い、どうしてもという物はなくし、危険防止に努め支援している。		周辺症状が強くて、共同スペースの物を移動しなければならなくなっているため、再度カンファをし考えていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを活用し、カンファの際に話し合い事故防止に取り組んでいる。 また、事故防止の為の話もミーティングで伝えてきている。		徹底されていないところもあるため再度ミーティングで話をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを見やすいものにかえ、対応し易いものになっている。		常日頃より緊急時の対応が出来るよう勉強会の開催・消防署から来ていただき対応する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一回避難訓練はしている。		協力のお願いまでは出来ていないので散歩の際などお会いした時に働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態不安定なご入居者のご家族にはあらかじめ、ドクターに依頼しムンテラをひらくなどして、以降を確認している。		状態を電話連絡するなど、こまめに連絡していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には留意し、気が付いた時は、リーダー・管理者に報告。申し送りにも必ず入れるよう伝えている。		申し送りされない時があるので、ミーティングなどで話をして徹底していき共有していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員の分り易いところにおき、不明な点は質問を受け、ドクター・薬剤師に確認している。薬の変更の際は影響などを申し送るようしている。		処方箋を常に見るよう促し、副作用などの見方などの話をミーティングですていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になりやすい人には、水分を多めに摂取していただいている。 献立にも繊維の多いものを取り入れている。		水分量の正確なチェックをし、便秘予防に努め、快適に過ごしていけるよう支援する。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時など口腔清潔しており、ご自身で出来るところは、やっていただいている。届かないところはスタッフが仕上げをさせていただいている。		自立で磨いている方に関しては、どの程度できているか、わからないところがあるため、再度状態の把握をして行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスのよい食事の献立を考えている。 一人一人の食事量・大きさなどを考えて盛り付けしている。		季節感を感じる食材の使用が少ないので、感じられるような食材の使用をしていく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、見えるところに置いてある。 手洗いうがいの徹底をしている。		職員だけでなく、ご入居者の方にも手洗いを習慣付けられるような支援をしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁とまな板は毎日ハイターに漬けている。 布巾類は使用の都度ハイターに漬けている。 食材は冷蔵庫で管理しているが、入らないもの・入れないほうがよいものは冷暗所で保管している。		包丁・まな板は肉・魚など切ったときはきった都度ハイターにつけていく。 布巾は多めに用意し、乾燥をきちんとする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に季節の花を植えている。		建物が分りにくいので今後、さり気なく分り易いよう表札を付ける位置を工夫していく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁などに季節に合わせたレイアウトをしている。 テレビ・ラジオの音量に注意している。		職員とご入居者でレイアウト考えていけるよう支援していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう、椅子の配置を工夫したり、テレビの位置を替えたりし過ごし易いようしている。		孤立してしまわないようなレイアウトを考え支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が使い慣れた家具を持ってきていただき、愛着のあるぬいぐるみ等を持ち込んで頂き、配置もご本人・ご家族と相談し決めている。		ご入居者全員ではないのでご家族に働きかけて居心地よくする支援をしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日に数回は換気をしている。暑さ・寒さの訴えにはエアコンの調整をしている。また訴えることが出来ない方にはご本人の様子をみてスタッフがエアコンの調整をしている。		居間だけでなく居室の換気もまめに行いよい環境の中で過ごしていただけるよう支援する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室にはシャワーチェアが配置され、共同部分には、手すりを配置してある。また玄関にはスロープが配置されている。		手すりの位置の再度の確認をし、シャワーチェアも必要か必要でないかをご入居者に合わせた支援をして行く
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札をつけている。また夜間混乱の恐れのあるご入居者の方には居室内のトイレの扉を少し開け灯りを点けるようにしている。		浴室・トイレが分らなくなることもあるので目印をつけたり、トイレの扉を少し開けるなど工夫した支援を続けていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑があり、草取りを一緒にしていただいたり、野菜の収穫を行ったりして、活動できるよう支援している。		一部のご入居者に限られているので、全員のご入居者が何かしら携わっていただける支援をしていく。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たち遊宴西川島のスタッフの遊宴の基本理念「私たちは、認知症の高齢者の方が人生を穏やかに、楽しく過ごしてもらいたいと考えます」をベースに生活の支援をしていきます。

そのために、ご入居者・ご家族に定期的にアンケートを実施して回答して、悪い点を職員でミーティングして次の結果で改善されるようにしています。

遊宴西川島では、今後、ご利用者さまが暮らしていた在宅での生活を大切に、どんな認知症の高齢者であっても、ごく普通の生活をしてもらえるよう、支援するよう努力します。